

# 環境学習施設研究部会 日帰り視察研修会 2023 報告書

環境学習施設研究部会では、「環境にやさしい施設に学ぶ」をテーマに、日帰り視察研修会を開催した。視察先は、2022年春に開館し、都内公共建築物で初めて「Nearly ZEB」建築物として認証された「品川区立環境学習交流施設 エコルとごし」、そして容器包装の中にかくれているさまざまな秘密をひらく「容器文化ミュージアム」である。

今回は、初めての東京方面における日帰り視察研修会の開催で心配したが、おかげさまで31名が参加され、無事に催行できた。

視察の概要 12月4日（月曜日）

- 12:20 JR 大崎駅改札 集合
- 12:30 JR 大崎駅前 出発（バス移動）
- 13:00 エコルとごし
- 15:00 バス移動～ JR 大崎駅（離団者降車）
- 15:30 容器文化ミュージアム
- 16:10 バス移動
- 16:30 JR 大崎駅 解散



図1：品川区立環境学習交流施設 エコルとごし

視察研修会の第1部は、「つなぐ つづける つくりだす ～エコなミライへ～」を施設のキャッチコピーとする「品川区立環境学習交流施設 エコルとごし」である。緑豊かな公園にマッチした施設のたたずまいに感銘をう

け、エントランスを抜け、天井が高く国産の木がふんだんに使われたコミュニティラウンジに入り、さらに感銘を深めた（図1）。そして3階に昇り、多目的スペースにて、本施設の主管課である環境課と設計・工事の担当課である施設整備課の両課長、そして施設運営を担当する館長（指定管理者：アクティオ株式会社）から施設の概要説明を受けた。

説明のあとは、3階の常設展示と映像展示の視察を行った（図2）。



図2：常設展示と映像展示

常設展示は、「ジカン」をキーワードに、身近な視点で様々な体験ができるハンズオンを重視した仕掛けになっていた。360度の映像展示は、ゲーム感覚で壁面の映像にタッチするプログラムが対象年齢にあわせて2種類用意されていた。おとも十分に楽しめて学べる内容だ。

そして太陽光パネルを含む屋上設備（図3）や菜園デッキ（図4）を巡り、1階のコミュニティラウンジへ進んだ。木の香りも漂う、良い空間設計である。

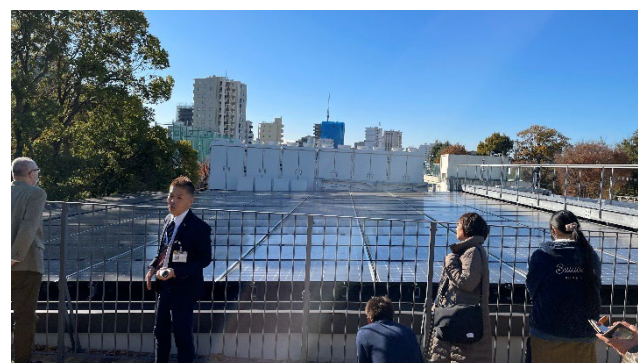


図3：屋上設備



図4：菜園デッキ



図5：換気窓（自然換気）

建築には、空調運転負荷を軽減する換気窓を設置(図5)し、一部には自然の風量や室内外の温度差により自然換気を行う重力換気窓も設置されていた。

最後に多目的スペースへ戻り、質疑応答の時間をいただいた。その応答の中で、特に印象に残ったのは、本施設の施工から運営に至るまでの業者を、ひとつのパッケージとしてプロポーザルをされたことだ。

一般的には、設計・施工業者、展示業者、運營業者等の分野に分けて各々で入札等により発注し、設計→施工→展示→運営という流れで施設の仕組みができていくケースが多いのだが、本施設は設計・施工から運営に至るまでを整備の最初からパッケージとして組み込んだプロポーザルを行ったという。行政による画期的な発注方式だと言えよう。

視察研修会の第2部は、オフィス街のビルの1階に開設された「容器文化ミュージアム」である。



図6：容器文化ミュージアム(エントランス)

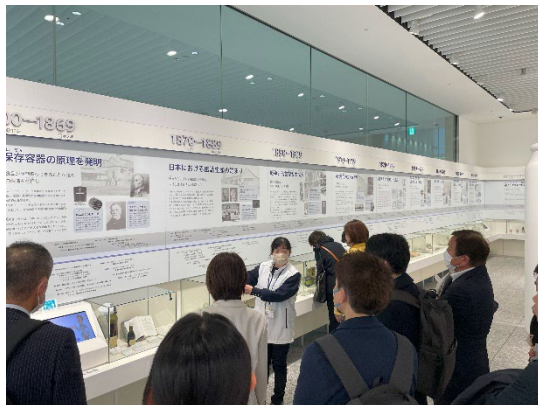
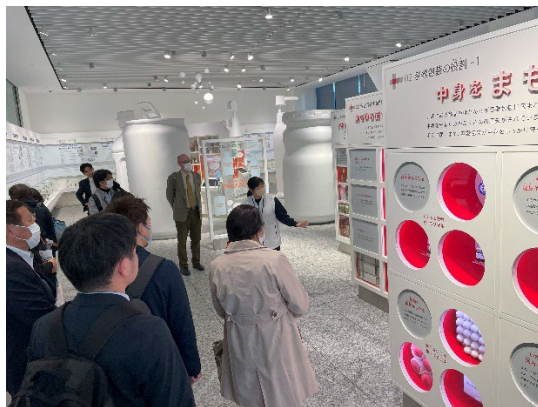


図7：容器文化ミュージアムでの視察

人間の営みに欠かせない容器の歴史から、容器包装の役割や最新技術まで、短時間ながら丁寧に説明をいただいた。容器包装についての良い勉強の機会となった。

最後に、品川区立環境学習交流施設エコルとごし、容器文化ミュージアムの皆様にお礼申し上げる。また、ご参加いただいた皆様のご協力にも感謝申し上げます。

(文責：鈴木榮一)